

15 ブラジルの歴史に育まれた独特の文化



「カポエイラ」は、格闘技のようにもダンスのようにも見える独特なスポーツです。

奴隷制時代の初め、アフリカ系黒人の奴隷労働者による喧嘩あるいは格闘から始まったと言われています。

それから長い時間をかけ、カポエイラは、2人の競技者が向かい合って互いの技を競い合うアクロバチックな舞のようなスポーツに進化していきました。

カポエイラは、ビリンバウという弓形の木製楽器の演奏に合わせて行われます。

「フェイジョアーダ」は、ブラジルの最も代表的な家庭料理のひとつで、黒豆をベースに豚肉、牛肉などの塩漬け肉、燻製肉、生肉と一緒に煮込んだ料理です。

この料理も奴隷制時代に生まれたと言われています。黒人奴隷が雇い主である農場経営者達が捨てていた豚の足、尻尾、耳、臓モツなどを黒豆と一緒にじっくり煮込んで食べたのが始まりだという説が最も有名です。



ブラジルの代表的な音楽のひとつ「サンバ」は、アフリカ系黒人の奴隷労働者たちが持ち込んだ音楽に、宗教的民俗舞曲など様々な要素が混ざり合ってきたとされています。

演奏に用いられる代表的な楽器のひとつが「カヴァキーニョ」です（写真）。

本来の呼び名は「カヴァコ」ですが、小さいものに「ンニョ」を愛称としてつけるブラジルでは、カヴァキーニョと呼ばれるようになりました。

この楽器の起源はポルトガルから渡ってきた移民が持ち込んだ「ブラギーニャ」とされ、ハワイの「ウクレレ」、インドネシアの「クロンチョン」も同じ起源を持つ楽器とされています。